

綺麗な青い海、白い砂浜、赤いハイビスカス。私は自然豊かな暖かい沖縄で育った。しかし、沖縄の自然にも危機が迫っている。

中学校三年生になり、学校で税金について教わる機会があった。それまでは税金にマイナスなイメージを持っていたが、税金が道路や学校、年金や医療などの社会保障、災害が起こったときの支援など様々な場面で役立っていて、いつもお世話になっていることがわかった。さらに、コロナで影響を受け、困窮している労働者等のための給付金なども税金による支援だったことを知った。また、私が小学生のとき、遊具から落ち、頭を縫うような怪我をしたことがある。そのときにも税金に助けられ、無事に治療を受けることができた。いろいろな経験から、税金のありがたさに気づくと同時に、税金の他の使い道について考えるようになった。例えば、埋め立てなどに使われている税金の一部をSDGsや自然保護に活用できたらどうだろう。

沖縄には、ジュゴンやサンゴなどの珍しい生物が住んでいる美しい海がある。また、世界自然遺産に登録されることが決定しているやんばるの森がある。しかし、やんばるの森には未だに米軍廃棄物が残されているのが現実で、小さな問題となっている。「海を埋め立てると生物の命が危ないのでは?」「やんばるの森の自然や動物たちは安全なのか?」私はたくさんの疑問に不安な気持ちでいっぱいになった。しかし、日本には環境保護の活動に使用される環境税というものがある。例えば、二酸化炭素の排出量に対して税金が課される「地球温暖化対策税」や、これから全国的に導入される、森林整備等に使われるための「森林環境税」などがある。沖縄のサンゴ礁を「地球温暖化対策税」によって保護しようという提案も出ているそうだ。また、自然保護に活用される納税方法の一つとして観光客から「入島料」を収受する島もある。このような、自然環境を守り、持続可能な社会のために使われる税金が増えてきている。私は税金の重要さに改めて気づき、税金により自然を守れることに嬉しくなった。そして、このような税金がさらに増え、沖縄の自然を守り、さらに美しい島にしてほしいと思った。

いろいろな税金の使い道について知ったことで、払わないといけないから払うのではなく、税金によって生活が豊かになっていることを意識し、感謝して税金を納めたいと思うようになった。今は納税への関わりは少ないが、これから就職、独立して所得税や住民税などを自分で納める立場になったとき、税金が何に使われているのかをしっかりと理解して納めることができることに嬉しく思う。自分が納めた税金が自然保護や、社会に役立つということはとても素晴らしい、光栄なことだ。私は自然豊かな美しい沖縄が大好きだ。これからの沖縄、日本の可能性に期待し、私も成長していこうと思う。